

人力での雪みちづくり

戸沢町内在住

角谷 豊明さんのお話し

私が住んでいる戸沢町内（神立）では、まず玄関を掘って雪の上に出ると、自宅の玄関前から隣りの家の玄関前まで雪を踏んで固めて「道をつける」というこ



とを各家ごとに行い、今の国道17号に出るまでの道をつくっていました。17号に出た後、今度は今の旧神立小学校の場所までを戸沢町内で「道ふみ当番」を作り、交替で道をつけてました。かんじきを履いて、その下に「すかり」というさらに大きなかんじきを履いて雪を踏み固めるんです。昔は小学校の他に中学校、役場や農協が同じ場所にあったので、通学する子どもたちや通勤する人のための道を踏み固めなければなりませんでした。雪が積もった日の朝に道をつけに行きますが、だいたい月に1回、冬の間に3回は順番が回ってきました。

町道・県道などの整備が進んで、機械除雪がはじまってきた頃、こちらの奥の方までは、まだ除雪が来なかったということもあって、町内で工夫して自宅の前の道に戸沢の豊富な川の水を流して雪を消すということもしていました。水を流すために各家よりも5～7cmくらい道に落差がついてたんです。時々、川魚が流れてくるなんてこともありましたね。昭和50年代くらいまではそのようにしていました。

国道や上越新幹線の整備が進んで、スキーなどの観光客も多くなって町も潤い、町道も改良されていきました。昔の面影はなくなっていますが、生活環境は良くなったと思います。

除雪の仕事を振り返って

元町道除雪従事者

南雲 茂夫さんのお話し

私が町道の除雪を担当するようになったのは約20年前です。初めは歩道除雪車の助手で、途中からは代理人として役場との連絡調整や隊員への指示、住民対応等を行うようになりました。通勤・通学時間に間に合うように除雪を行うためには朝4時頃から作業を行う必要がありますが、それまでに除雪を行うかどうか判断し出勤する場合は隊員に召集をかけるので、代理人はもっと早くから働かなければなりません。夜中に降っていても、明け方に急に凄いきりで降ってくることもあるので、そうすると除雪作業が間に合わなくなってしまうこともあり気が気でありません。



最近の大きな変化は除雪車にバックモニターが付いたことだと思います。除雪車は大きいものでは幅2m・長さ7m・高さ3mを超え死角が多いので、後方確認が楽になりました。ただ、それでも死角はあるので目視での確認は大切です。

降雪が続くと作業員の疲労も溜まってきますが最近は人手不足で交代要員も中々確保できず大変です。また、自分の家の除雪もあるので家族へ負担をかけることも多くなってしまいました。

それでも辛いことばかりでなく、何ととっても嬉しいのは作業中に子ども達から手を振ってもらえたりすることです。

町民の皆さまにはこれからも除雪作業へのご理解をいただきますようお願いいたします。

編集後記

町の発展に伴い道路や景観の整備が進み、現在の町並みとなりました。雪国湯沢にとって道路除雪はまさに生命線で、町内には携わっている方が多くいらっしゃいます。南雲さんは秋に退職されました。長年にわたり町道除雪に携わり安全・安心な道路交通確保に尽力していただき、ありがとうございます。

角谷さんからも「道ふみ」をはじめ、当時の様子をわかりやすく教えていただきました。踏み固めた道は1人しか通れなかったもので、すれ違う際は、どちらかが通り過ぎるのを待つようにしたのだそうです。住民同士が協力しゆずり合いながら、生活が営まれていたことがわかり、今でも変わらず大切にしていきたいことだと感じました。除雪に携わる方々や人々の支え合いによって、雪が降っても安心して外出できることを忘れずに過ごしていきたいです。